

容器及び容器弁の取り扱いについて

お客様に高圧ガス容器を安全に取り扱って頂くための注意点と、実際に生じた不具合事例（別紙参照）につきましてご紹介させていただきます。

ご存知の事と思いますが、容器及び容器弁に不具合があると、当該容器が安全に使用できなくなるばかりでなく、大きな漏洩事故の原因となります。

今後とも安全に高圧ガスをご使用頂くために、実際に容器を取り扱われる方々へ、下記の内容をご周知頂きます様、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

① 取り付け口の連結管が容器弁口金の形状と合っている事を必ずご確認ください。

容器弁口金の形状と合わない連結管を無理につなげようとする、ねじ山が変形・破損し、漏洩発生の原因となるばかりでなく、最悪のケースでは連結管から外れて大漏洩を引き起こす可能性があります。ねじ山の方向等や口金形状は必ず確認して頂いた上で、取り付けを行ってください。また、パッキンが必要な連結管については、必ず適正なパッキンをご使用ください。



口金の溝が2重になっている



ネジの形状が変わっている

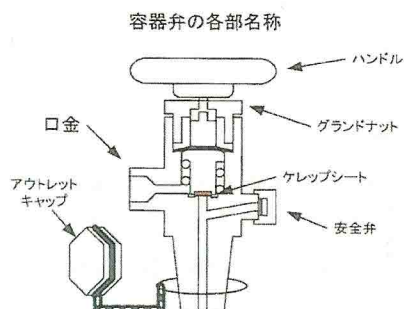


口金の溝を横断する傷がある

② 容器弁ハンドル部に過大な力を加えないでください。

容器弁ハンドル部に過大な力を加えて操作すると、ケレップシート（容器内のガスをとめている樹脂）が異常に変形するもしくは、ハンドル軸（スピンドル）が折れて容器弁として機能しなくなる場合があります。

適正なトルクで操作出来る専用のトルクレンチのご使用を推奨いたします。



未使用ケレップシート



変形したケレップシート



ハンドルが欠損した容器弁

③ 鎖掛け等の容器転倒防止を必ず行ってください。

容器が転倒して容器や容器弁が変形・破損すると、機能に問題が生じ、漏洩発生の原因となります。また、容器の設置及び保管環境に問題があると、容器外面に腐食等の不具合を生じることがありますので、容器の設置及び保管環境にもご留意頂きます様、お願い致します。



ネックの傾き

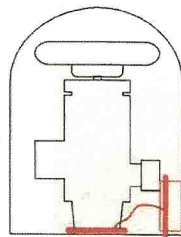


外面腐食

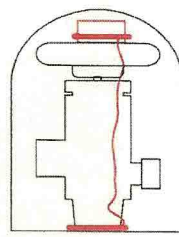
④ 容器保護キャップ取り付け前に必ずアウトレットキャップをお取り付けください。

アウトレットキャップがしっかり取り付けられていないと、ハンドルが緩んだ際に直ちにガスが漏洩し、非常に危険です。また、ハンドルの上にアウトレットキャップを置いて容器保護キャップを取り付けると、容器保護キャップを外す際にハンドルが回り回して開く事で漏洩が発生するもしくは、アウトレットキャップが容器弁と容器保護キャップの間に引っかかり容器保護キャップが外せなくなる場合があります。

必ずアウトレットキャップをしっかりと取り付けしてから保護キャップを取り付けてください。



保護キャップが
外せなくなる



ハンドルが
回り回す

⑤ 容器は必ず残圧(目安として0.5MPa)がある状態でご返却ください。

残圧が無い又は負圧状態で返却された容器は、他のガス(空気等)が混入し内部が汚染されている可能性が考えられるため、改めて容器整備を行う必要が生じます。

ご返却時には、必ず残圧(目安として0.5MPa)の圧力を残してご返却ください。



空気が混入して内面がさびた容器内面

※ 高圧ガスを取り扱う上での保安的観点より、ご返却頂いた容器に不具合が認められた際は、要因についてのヒアリングや、作業・工具の改善をお願いさせていただきます。また、不具合の状態によっては復旧費用をご負担して頂く場合もございますので、何卒ご理解賜ります様、よろしくお願い致します。

以上